

1. 職名・氏名 教授 廣瀬弘毅

2. 学位 学位 修士, 専門分野 経済学, 授与機関 京都大学, 授与年月 1998年3月

## 3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 経済政策（4単位 毎年開講） 2年生
②内容・ねらい（自由記述） 経済政策 理論と現実との関連を理解させる。そのため、ミクロ経済学、マクロ経済学の復習を交えながら、それらの理論が生まれてきた社会的背景についても、時間を割いて論じている。と同時に、できるだけ実際のデータを読み解くことを念頭に講義を展開した。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 講義用に、図を用いるところではパワーポイントを利用して、理解を促進している。特に、今年度はコロナ対応の関係で、交流センター講堂を使ったが、久しぶりの対面である一方、黒板は使えないので、プロジェクター中心の授業として構成を変えた。 今年度は、期末試験の解答方法に工夫をさせるため、模式図を中心に、必要事項を書き込むようなスタイルにした。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 産業組織論（2単位 隔年（偶数年開講））
②内容・ねらい（自由記述） 学生にはなじみの薄いミクロ経済学を現実の経済分析に利用できるということを実感させることをねらっている。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 学生でも普段気づきやすい卑近な例も用いながら、難解な産業組織論の理論を理解させるようにしている。今年度は久しぶりの完全対面方式の授業となり、双方向の感覚を活かせるよう配慮した。 また、今年度は公正取引委員会事務局近畿中国四国事務所長の原一弘氏による特別講義も実施できた。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 演習 I（4単位） 3年生
② 内容・ねらい（自由記述） 主に2つの目標を考えている。最近の学生は理論を敬遠する傾向にある。そこで、まず第一に前期ではあえてマクロ経済理論とミクロ経済理論の両方を復習させている。前期はミクロ理論及びマクロ理論の復習を行っているが、単なる復習ではなく、現実と理論のリンクを意識させている。後期には他大学との対抗ゼミが久しぶりに対面で実施できた。おそらく学生には得がたい経験となったと思われる。 12月には、学内の smap 合同ゼミナール大会（スマコン）にも出場した。限られた時間での

準備であったが、それなりの成果があったと思う。特に、今回は提案型にこだわらず、探究型のテーマとなったことも、一つの進歩だと思う。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

学生の自主的な運営力を涵養するために、できるだけ準備段階では口を挟まないようにしている。しかし、全く放任というのではなく、要所で学生自身に立ち止まらせ、自らの行動を振り返られるように、区切りをもうけている。

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等  
演習Ⅱ 4年生

② 内容・ねらい（自由記述）

4年生の前期は、就職活動で忙しいため、3年生までのように担当を事前に決めて、報告させるスタイルは難しい。そこで、出席可能な学生に対して、新聞等から興味を持ったものについて、簡単なレジュメを作成させ、議論の種としている。

後期では、卒業論文の作成のため、随時進行状況を報告させている。履修する学生に、卒論を書くことを原則としているので、10名中10名全員が執筆中である。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

さまざまなネタをもとに議論させることで、就職活動中の「グループ・ディスカッション」への心理的障壁を引き下げると同時に、耳学問的に知識の豊富かを計っている。

卒業指導は、個人単位が中心となる。ZOOMと対面を使い分けて行うことが出来た。

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等  
基礎演習 2年生

② 内容・ねらい（自由記述）

2年生の段階で、あえて「経済学とはどのような学問か」を考えさせるような教材を選択して、報告させている。この目的は、内容もさることながら、これから本格的に専門教育を履修するに当たって、「経済学」という学問体系に対してイメージをわかせると同時に、レジュメの作成、報告の作法など技術の習得も目的としている。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

残念ながら、現在のカリキュラム体系ではメタレベルでの経済学を学ぶ機会は無に等しい。そこで、簡単ではあるが経済学の入門書では古典に類する新書を教材に選んでいる。具体的には大塚久雄の『社会科学における人間』等を選ぶことにより、幅広い視野を習得できるように配慮しているつもりである。とはいえ、最近の学生の「社会への関心」を惹くのは難しい。

(2)その他の教育活動

内容

#### 4. 研究業績

(1)研究業績の公表
①論文
②著書 ・教科書・参考書 (文部科学省検定済高等学校用教科書) 中村達也他『詳述公共』実教出版 2012年2月発行(共著)
③学会報告等
④その他の公表実績 ・書評「Niklas Olsen <i>The Sovereign Consumer: A New Intellectual History of Neoliberalism</i> Cham: Palgrave Macmillan, 2019, x+308 pp.」, 『経済学史研究』第64巻1号 『2022 ブームアップ現代社会資料』実教出版(高校生用資料集)一部執筆 2022年発行 『2022 新政治・経済資料三訂版』実教出版(高校生用資料集)一部執筆 2021年発行 ※2019年新規作成分の改訂
(2)学会活動等
第27回進化経済学会東京大会オータムカンファレンス ライブプレゼンフェス コメント (ZOOMでの参加となった。)
学会での役職など(学会名) 地域公共政策学会 理事長 進化経済学会 理事 進化経済学会フェロー選考委員
学会・分科会の開催運営(担当学会(大会)名(開催年月日), 開催場所)
(3)研究会活動等
①その他の研究活動参加(参加研究会名, 調査活動名(期間)) 経済学方法論フォーラム(代表: 中央大学只腰先生, 北海道大学佐々木先生)年2回
②その活動による成果
(4)外部資金・競争的資金獲得実績

科学研究費「新自由主義的思潮の浸透に関する実証的研究」（基盤研究(B)課題番号 19H01472）  
研究代表者 2019年度～2022年度

(5)特許出願

## 5. 地域・社会貢献

### (1)学外団体

①国・地方公共団体等の委員会・審議会（それぞれの名称，業務内容，担当期間）

福井県景気動向指数検討委員会（現職）

大野市都市計画審議会（現職）

福井市都市計画審議会（現職）

②国・地方公共団体等の調査受託等（それぞれの名称，業務内容，活動期間）

③（公益性の強い）NPO・NGO 法人への参加（それぞれの名称と活動内容，活動期間）

小規模多機能型居宅介護施設「ほっこり」運営委員（今年度より）

④（兼業規程で業務と見なされる範囲内での）企業等での活動（企業名，活動内容，活動期間）

⑤大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等

（事業名称及び主催・共催者名，活動内容，活動期間）

⑥その他（名称，活動場所，活動期間）

福井県総務部政策統計課 統計分析グループとの間での毎年（不定期もあり）な意見交換を行っている。産業連関分析や県民経済計算についての研究など。なお，表にはなっていないが，不定期に採用指数の変更検討など何度か打ち合わせが行っている。

### (2)大学が主体となっている地域貢献活動等

①公開講座・オープンカレッジの開講（タイトル名，開催場所，開催日時）

オープンカレッジ（WEB版）

②社会人・高校生向けの講座（タイトル名，開催場所，開催日時）

③その他（名称，活動場所，活動期間）

武生東高校出張講義（2021年度）（10月29日）

福井県高等学校地歴公民科教育研究会社会部会講演（10月22日）県立図書館

### (3)その他（個人の資格で参加している社会活動等）

(活動内容, 主たる活動場所, 活動期間)

6. 大学運営への参画

(1)役職 (副学長, 部局長, 学科長)
(職名, 期間) 経済学部長, 大学院経済・経営学研究科長
(2)委員会・チーム活動
(名称, 期間) 大学案内 WG
(3)学内行事への参加
(行事名, 参加日時)
(4)その他, 自発的活動など
(活動名, 活動内容, 活動期間)